



12月17日(土) 曇りのち小雨
今日の活動は、歳末恒例の餅つきとしめ飾りづくりでした。

お餅にするもち米は、塾生が田植えや稲刈りをして収穫をしたもち米をつかいました。60人分のお餅を作るため、7升5合(11kg)のお米を蒸し、昔ながらの杵と臼で、「ぺったんぺったん」とお餅をつきました。杵が重くて、つくのが大変でしたが、一生懸命頑張りました。

つきあがったお餅は、サポーターが取り分け、塾生がこしあんを包み、あん餅にしました。



次に、森公苑の里山に出かけ、シイタケの原木の枝打ちを体験しました。直径15cmもあるクヌギにのこぎりで受け口の反対側に水平に切れ込み入れ、予め伐採するために掛けておいたロープをみんなで引っ張り、切り倒しました。そのあと、のこぎりを使って、枝を切り払いしました。



昼食は、自分たちが丸めたあん餅やお餅にきなこやみたらしだんごのたれ、おろしをつけていただきました。つきたてのお餅は柔らかく、とってもおいしかったです。一番人気は、きなこ餅でした。



午後からは、杉本サポーターの指導でしめ飾りとミニ門松づくりに取り組みました。

しめ飾りの材料となる藁は、塾生が脱穀したもち米の稲藁をつかい、杉本さんが編んくれたメガネに縁起物の稲穂や松葉、うらじろ、ゆずり葉などを飾つけました。紅白水引の結び方など、難しいところは、サポーターに手伝ってもらいながら、りっぱなしめ飾りが出来ました。

また、松、竹、梅やナンテンなどを飾ったミニ門松もつくりました。

